

害虫駆除で60年 人や環境に配慮。 感染症予防に協力



＜三田地区所属＞
アベックス産業
株式会社
代表取締役社長
元木 貢
もときみつぐさん

◆ 増える厄介者クマネズミ

ペストコントロールの会社である。といっても分からない。ペストとは、「厄介者」という意味だ。人の生活環境に入って来てほしくないものである。それをコントロール、つまり制御する。害虫などの駆除を専門に、父親の代から芝で約60年の実績がある会社だ。元木社長は二代目である。

相手にする「害虫」も幅広い。ゴキブリ、ダニ、シロアリから庭木の害虫、ヘビ、アライグマと数え切れないほどだ。それだけ、人の見えないところで、人の領域に侵入して害を及ぼすものが多い。だが、いま都市で一番の厄介者はネズミだという。

元木社長によれば、東京のビルの25%、4棟に1棟にはネズミがいる。餌が豊富なデパートやホテル、旅館になると、半数の50%はネズミの被害に遭っている。一般住宅でも20%の率だ。恐ろしい数字が並ぶ。

しかも、昔とは種類が違っている。戦後よく見たドブネズミは、東南アジア原産のクマネズミに駆逐されて、都会のネズミの90%はクマネズミだ。細菌をばらまくだけではない。電線

をかじって火事も起こす。だが「駆除が難しい。薬にすぐに耐性をつけるし、警戒心も強い」。港区の繁華街、地下街にはかなりの数のネズミがいるはずだという。

港区のような都心では、まさかと思うだろうが、スズメバチが増えてきている。緑が増え、捨てられるジュースの缶の飲み残しがいい餌になるといふ。まだある。トコジラミ、コロモジラミ、ダニも増殖している。ソツとするような話が続く。

◆ 不衛生は会社の命取り

「人間が暮らしやすい環境、暖かくて食料がある。それは害虫にも暮らしやすい」。それなのに、人は思ったほど衛生観念がないと指摘する。不衛生は、時に会社の命取りになるのに、理解がない。「消毒をやっておけばいい、費用が安ければいいというのは困る」と手厳しい。

懸念しているのは、アメリカで拡大しているウェストナイル熱だ。「普通の蚊が媒介して流行する。上陸してきたら大変です。日本には、十分な殺虫剤の備蓄がない」。感染症予

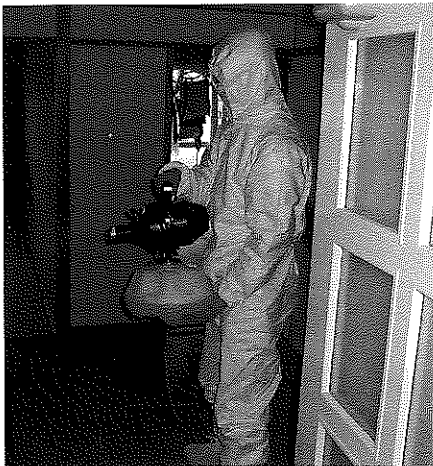
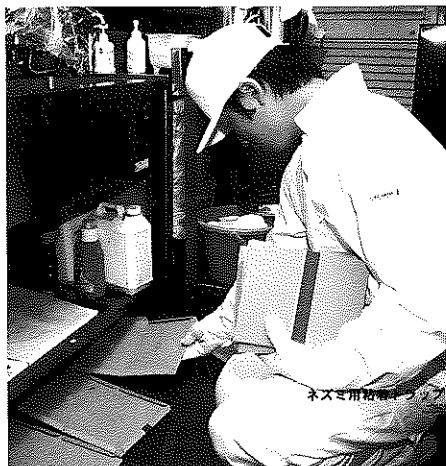
防対策では、協力することで港区とも契約している。ノロウイルスや鳥インフルエンザでも出動した。公益に密着した会社の経営者らしい発言だ。

自前の研究室も本社ビル内に持っている。冷蔵庫には、ダニなどの標本が保管されていた。注文があれば、採取して検査する。どんな虫か、どうすればいいのか。検査は対策を立てる大前提だ。

穏やかな語り口は、経営者というよりは、学者という方がふさわしい。余計に説得力がある。それもそのはずだ。早大卒業後に、東大医科学研究所で研究生として寄生虫の勉強をした。最近では、麻布大学で環境保健学の学術博士号も取得している。科学的な根拠に基づいて仕事をするというのが、モットーだ。

「薬をまくだけでは駄目。発生しないように、侵入しないようにすることが大事」と強調したうえで「これからも地域に密着した害虫問題をやっていきます」と最後に締めくくった。

●アベックス産業㈱事業内容の詳細は、<http://www.apex-sangyo.jp> をご覧ください。



●粘着トラップによるネズミ捕獲／感染症発生時の消毒。社東京都ペストコントロール協会感染症予防衛生隊の一員として港区の感染症予防に協力／研究室でのダニ検査